サロン

第 52 回ヨーロッパ高圧力グループ会議 (52nd EHPRG Meeting) 報告

Report on 52nd European High Pressure Research Group Meeting

貝原 勇司

Yuji KAIHARA

2014 年 9 月 8 日～12 日にかけてフランスのリヨンで開催された 52nd European High Pressure Research Group Meeting (52nd EHPRG Meeting) に参加した。リyonはパリのシャルル・ドゴール空港から TGV という電車で 2 時間のところにある街である。世界遺産に登録されている旧市街をはじめ、歴史を感じる街並みが印象的だった (Fig. 1)。私は 4 日目のポスターセッションで発表をした (Fig. 2)。昨年度、ロンドンで開催された 51nd EHPRG Meeting に参加した私にとって、2 回目の国際会議となった。発表内容は熱電材料の一つである Mg_2Si の高圧下での合成と、合成された試料の熱電性能の評価についてである。昨年度の EHPRG Meeting でのポスター発表では、用意した原稿を丸覚えして発

表したが、今回は丸覚えではなく重要なフレーズや単語を頭に入れて発表に臨んだ。その結果、一方的に話すのではなく、議論の中で会話のキャッチボールが出来たことは去年より英語でのコミュニケーションが成長した点だと思う。聞き取れない質問に対しては「One more please.」「What's mean ~ ?」など聞き返して、正確に実験結果を伝えることに努めた。そうすると、外国の研究者の方々は簡単な単語やジェスチャーを使い、さらには文章を紙に書いてくれたため、英語が流暢でない私でもコミュニケーションが取りやすく、深く議論できた。英語が聞き取れても、自分の知識不足で答えられない質問もあり、国内外を問わず、事前に実験データを深く解析しておくことは大切なことだと実感した。また、私

Fig. 1 (Color online) A photograph of the old city of Lyon.

Fig. 2 (Color online) A photograph of the poster session.

〒700-0005 岡山市北区理大町 1-1 岡山理科大学大学院 理学研究科
Graduate School of Science, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama 700-0005
Electronic address: s13sm02ky@ous.jp

の研究対象の物質である Mg_2Si の高圧力下における熱電性能測定を行っているグループがポスター発表をしていたため、説明を聞きに行き、簡単な質問を投げかけることはできた。質問をする時は非常に緊張したが、単語をつなぎ合わせただけの、文法を無視した様な英語でも何とか通じ、最後には相手の名刺をもらい握手した時は、勇気を出して質問して良かったと感じた。この様な点を踏まえて、自分にとって有益な学会だったと思う。加えて、口頭の発表を聞きながら、流暢な英語で議論やプレゼンテーションを行う日本人の先生方を見て、私も技術者として将来は海外で活躍できる人材になりたいと思うようになり、将来的な目標ができた刺激的な5日間であった。

夜は他大学の日本人の先生方や学生さんと食事に同行させて頂き、フランスのワインと料理も堪能した。普段の国内での学会では、他大学の先生方と食事に行くことや、懇親会でお話する機会は少ない。対して、国際会議では日本人の先生方や学生さんとの親睦をより深めることができ、研究に対するアドバイスや高圧科学に関する様々なことを教えて頂い

た。これらのことは国際会議に参加した人の特権であると思った。

今回の国際会議で学んだことは、外国の研究者と英語で議論するときに、聞き取れない質問に関しては「私はあなたの言っていることのここが分かりません」「あなたの言っている意味はこういうことですか？」と聞き返しながら、自分の理解度を相手に伝えることの重要性である。分かったふりをせず、遠慮せずにコミュニケーションを取ることで、相手もそれに応じてくれる。外国人に比べて控えめな性格で感情表現をすることが苦手とされている日本人にとっては少しハードルが高いが、その克服は大切なものだと感じた。実際に私も控えめで大人しい性格であるので、英語でのコミュニケーション以前にそのような文化の違いに苦勞した。

最後に本会議に参加するにあたって、プレゼンテーションの指導と旅費を申請してくださった当研究室の森教授、大阪大学の大高先生をはじめ、リヨンで議論や食事をさせて頂いた日本人の先生方と学生方にこの場をお借りして感謝申し上げます。